

施策評価シート(平成31年度実績評価)

施策の基本情報

政策No	0101	政策名	農林業の振興	施策主管課	農村林務課	課長名	菊池 正彦
政策の目指す姿	農林業者が安定した所得を確保しています						
施策No	05	施策名	森林の保全	関係課名			
施策の目指す姿	森林が健全に育っています						
現状と課題							
<ul style="list-style-type: none"> ・本市の松くい虫による被害については、一部の地域を除き、大部分が被害が多く、拡散している高被害地域に位置付けられ、駆除に係る国からの支援が少なくなっており、選択と集中による官民一体となった取り組みが必要となっています。 ・松くい虫被害木や林地残材などの未利用材のバイオマス燃料等への有効な活用が求められています。 ・高齢化や後継者問題等により里山等の管理が行き届かず、鳥獣被害が増加傾向にあります。 ・森林保護活動に参加する市民の割合が4.0%（市民アンケート）と低い状況となっています。 							

前年度の評価の振り返り

前年度評価時の今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・水源地視察や木工教室、市民が自ら取り組む森林体験事業やシンポジウム、市有林を活用した植樹体験などを継続して実施するとともに、国の里山整備事業に加え、市独自の里山整備に対する支援を行い、森林に対する意識の醸成を図っていく。 ・市内の松くい虫被害の先端地域である大迫地区を集中的に駆除するとともに、ライフライン(道路・電線)の確保と景観保全を目的とした被害木の処理を計画的に進める。また、被害木の活用方法としてバイオマス燃料に活用するため、伐採から植栽まで可能な樹種転換事業や植栽後の手入れを行うための森林整備事業を組み合わせ、民有林の松くい虫対策が進むよう関係機関が連携を図りながら森林再生を進める。
反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ・木工体験教室や市有林を活用した植樹体験を実施するとともに、里山の自伐整備を行うための知識や技術の習得講座、安全講習の開催等に支援した。また、市民向けフォーラムの開催支援を通じ、森林に対する意識啓発を図った。 ・大迫地区を中心に松くい虫被害拡大防止対策を進めるとともに市有林の樹種転換事業を実施した。また、ライフライン(道路・電線)の確保と景観保全を目的とした被害木の処理を行うとともに被害木の有効活用策としてバイオマス燃料としての活用を促進した。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1) 森林保全の推進
<ul style="list-style-type: none"> 観光地等の周辺や特用林産物の生産地である森林の保護 ・胡四王山周辺や大迫地域を重点的に被害拡大防止対策を実施した。 松くい虫被害木のバイオマス燃料としての活用 ・個人が持ち込み可能な小口買い取り制度を支援し被害木の受け入れを推進するなど被害木のバイオマス燃料としての活用を進めた。 隣接自治体との連携による保全対策 ・遠野市と連携し観光ルートの枯損木の除去を行い、景観回復を図った。 樹種転換の推進 ・松くい虫被害が蔓延している状況から、赤松林から他の樹種に転換を図った。
(2) 森林の多面的機能への意識啓発
<ul style="list-style-type: none"> 自伐型林業の推進と担い手の育成 ・スモールフォレストカレッジ(講座)や安全講習を開催し、林業担い手の育成に努めた。 地域住民による里山保全活動の支援 ・地域住民が自主的に行う里山整備事業に対して支援した。 植樹、水源地観察、木工教室など森林や木材へ親しむイベントの開催 ・自然観察会や木工体験教室、小中学生による植樹体験を開催した。

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方	成果指標の測定方法	単位	数値区分	H28	H29	H30	H31	R02	R03
植樹などの森林保護活動に参加した市民の割合	森林を保護する活動を実際に行っている市民の割合を示す指標です。増加を目指します。	出典：花巻市(市民アンケート) 問「あなたはこの1年間に次のような自然環境を守る行動を行ったことがありますか」に対し「(4)植樹などの森林保護活動」と答えた割合	%	目標値		4.70	5.00	5.40		
				実績値		4.70	3.60	3.60		
里山保全活動が行われた面積	市民自ら里山保全に対する関心が高まっていることから、今後も里山再生を推進し適正な森林の機能維持を図るため	森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用した取り組み面積(出展 岩手県)	ha	目標値		40.60	41.80	43.10		
				実績値		35.60	52.60	67.70		
				目標値						
				実績値						

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	<p>成果指標「植樹などの森林保護活動に参加した市民の割合」・・・【達成度c】 森林保全に関する様々な機会を提供し、市民の意識啓発を図っている。イベントの規模がそれほど大きくなく参加者が限られることもあり実績が増加しなかったが、内容の充実を図りながら今後も市民への啓発活動を持続的に実施することが必要である。</p> <p>成果指標「里山保全活動が行われた面積」・・・【達成度a】 里山保全を進めるために、市民自らが積極的に国の事業を活用して事業を実施している。事業実施に係り情報提供や応分の負担をするなど活動に対し支援している。</p>

4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<ul style="list-style-type: none"> ・（森林保全啓発事業）森林の持つ多様性に対する関心を高めるために、市有林を活用し子供たちや市民を対象とした植樹体験の機会を継続して提供していく必要がある。 ・（森林環境保全事業）松くい虫対策については、国の予算が減少する中、市内の先端地域である大迫地域において重点的に被害拡大防止対策を行うとともに、近隣市町と連携した駆除等により効果的な景観の保全とライフラインの確保対策を継続して行う必要がある。また、国営林と連携したバイオマス施設を活用した被害木の活用（処理）を一層推進する必要がある。
新たに取り組むべき事業はないか
<ul style="list-style-type: none"> ・（森林環境保全事業）松くい虫被害が蔓延している状況の中で、効果的な被害拡大防止と景観保全を図るため、隣接自治体と連携した取り組みや、バイオマス燃料として活用を進めるための効果的な処理方法を関係機関と連携し引き続き検討する必要がある。

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・市民自らが山や木に触れ親しみ、森林の持つ多様性に関心を高めるイベント等の企画や森づくりの情報が少ないことから、市民全体の割合から見れば市内イベントへの参加者が少ない状況となっており、イベント内容の拡充等について検討する必要がある。 ・松くい虫被害の先端地域が北上し被害対策等に係る国の予算が大幅に減額となっていることから、選択と集中による被害拡大防止と樹種転換の促進や森林所有者等の自発的な防除活動など近隣市町や営林署、市民と連携した取り組みが必要である。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・水源地視察や木工体験教室、市民が自ら取り組む森林体験事業やシンポジウム、市有林を活用した植樹体験などを内容の拡充を図りながら継続して実施するとともに、里山整備を促進するため国の事業活用のほか市独自の支援を行い、森林に対する意識啓発を図っていく。 ・市内の松くい虫被害の先端地域である大迫地区を中心に集中的に被害拡大防止を図るとともに、ライフライン(道路・電線)の確保と景観保全を目的とした被害木の処理を計画的に進める。また、被害木のバイオマス燃料への活用を進めるため、樹種転換事業や森林整備事業を組み合わせ、民有林の松くい虫対策が進むよう関係機関と連携を図りながら森林保全を進める。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		
			対象	意図	成果
010	森林保全啓発事業費 森林保全への理解を高めるための自然観察事業やイベントの開催 (森林体験、自然観察会、木工体験教室、林業体験 スモールフォレストカレッジ、安全講習、フォーラム)	農村林務	一致	直結	B
			直結度 A		
020	森林環境保全事業費 森林保全のための松くい虫被害拡大防止と森林資源の適正な維持管理 (駆除材積 878m3、私有林巡視活動 168回)	農村林務	一致	直結	A
			直結度 A		